

寅さん歩 その 26

東京の主要道路の起点～終点

蔵前橋通り－3



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」、「浅草通り」、「六本木通り」、「池上通り」、「駒沢通り」、「海岸通り」、「清洲橋通り」、「井ノ頭通り」、「葛西橋通り」、「中野通り」、「平和橋通り」、「大久保通り」と歩いてきました。

今回は「蔵前橋通り」を歩いています。蔵前橋通りは文京区湯島の本郷通りのサッカーミュージアム入口交差点を起点に、江戸川区北小岩の千葉街道の江戸川交差点に至る延長約14kmの道です。写真右上は蔵前橋通りの道路名標識（都道315号線）です。蔵前橋通りは今までに歩いた多くの道で交差しましたが、終点が千葉県境なので後回しにしていた道です。前は法恩寺橋から新小原橋交差点まで歩きました。

今回は新小原橋交差点から終点まで歩きます。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[新小原橋交差点] 江東区亀戸八丁目

最寄駅 東武亀戸線 亀戸水神駅



新小原橋交差点（写真左）で丸八通り（都道 476 号線）と交差します。左へ行くと小原橋・立花・明治通り方面、右へ行くと京葉道路・亀戸駅方面です。左上は車の通る蔵前橋通りで、歩行者は脇の道を上がり旧中川にかかる江東新橋を渡り進みます。

[江東新橋] 江東区亀戸八丁目・江戸川区平井三丁目

最寄駅 東武亀戸線 亀戸水神駅

1961 年（昭和 36 年）新設の「江東新橋」（写真下左）は旧中川にかかり、蔵前橋通りでは江東区と江戸川区の区境になります。写真下右の旧中川の右側は江東区亀戸中央公園、正面は総武線が走っています。



[平井大橋西詰交差点] 江戸川区平井六丁目

最寄駅 JR 総武線 平井駅

平井大橋西詰交差点の右手前に JR 総武線平井駅入口の表示があります。平井大橋西詰交差点（写真下右）でゆりのき橋通り（都道 449 号線）と交差します。左へ行くとゆりのき橋・八広方面、右へ行くと京葉道路・小松川方面です。平井大橋は荒川にかかる他の橋の渋滞緩和を目的に 1966 年（昭和 41 年）8 月に開通しています。



[平井大橋] 江戸川区平井六丁目・葛飾区西新小岩二丁目

最寄駅 JR総武線 新小岩駅

平井大橋（写真下左）は荒川（写真下右）と中川に架かる大きな橋です。荒川は江戸川区と葛飾区の区境になります。



振り返る東京スカイツリーが見えます（写真下左）。荒川を渡ると、中川を渡ります。写真下右は中川です。





平井大橋（写真下左）は中川まで含まれています。平井大橋を渡った右側は新小岩公園（写真下右）です。東京都ウォーキング協会の例会の集合場所によく使われています

[たつみ橋交差点]

葛飾区西新小岩四丁目

最寄駅 JR総武線 新小岩駅

たつみ橋交差点（写真下右）で平和橋通り（都道 308 号線）と交差します。左へ行くと堀切方面、右へ行くと新小岩駅・江戸川区役所方面です。



たつみ橋交差点の左先には西井堀せせらぎパーク（写真下左右）があります。西井堀は江戸時代に整備された用水路で水源は葛飾区水元です。暗渠になり 1944 年（平成 6 年）にせせらぎパークとして生まれ変わりました。



[小松橋北交差点] 葛飾区西新小岩四丁目

最寄駅 JR総武線 新小岩駅

小松橋北交差点（写真下右）で右へ行くと鹿骨町とあります。鹿骨（ししぼね）は江戸川区の地名で、奈良時代に春日大社の創建の際に常陸国鹿島神宮から多くの神鹿を引き連れて向かった際に、死んだ鹿を葬ったのが地名の由来とのことです。



[総武陸橋下交差点] 葛飾区奥戸四丁目

最寄駅 JR総武線 新小岩駅

総武陸橋下交差点（写真下右）で環七通り（都道 318 号線）と交差します。左へ行くと青戸方面、右へ行くと一之江方面です。蔵前橋通りは直進します。



[上一色橋] 江戸川区上一色三丁目

最寄駅 JR総武線 小岩駅

上一色橋（写真下左）は新中川（写真下右）にかかる橋です。前方の橋は新金（しんきん）貨物線で新小岩（小岩）と金町を結ぶ貨物支線とのことです。



上一色橋（写真下左）を渡ると左側に西小岩親水緑道（写真下右）があります。



説明板には「かつては上一色用水路で農業用水路として使われましたが、都市化と共に地域の主要な排水路に代わり、ふたがかけられ歩道として利用されました。この排水路も下水道の整備でその使命を終え、四季を通じて花が植えられ、親水緑道に生まれ変わりました」と記載。江戸川区には多くの所に親水緑道が整備されています。

[六軒島交差点] 江戸川区西小岩三丁目

最寄駅 JR総武線 小岩駅

六軒島交差点で奥戸街道が左へ分岐して四つ木方面へ向かいます。写真下右は歩道橋の上から撮りました。左へ行く道が奥戸街道です。「六軒島」の地名の由来はこの一帯が台風により洪水になった時に、総武本線の車窓から六軒の家が島のように見えたことから「六軒の島」から「六軒島」と呼ばれるようになったそうです。



[柴又新道口交差点] 江戸川区西小岩五丁目

最寄駅 JR総武線 小岩駅

柴又新道口交差点（写真下右）で柴又街道（都道 307 号）と交差します。左へ行くと映画の寅さんのふるさと柴又・金町方面、右へ行くと篠崎方面です。



[中小岩小入口交差点] 江戸川区西小岩五丁目

最寄駅 JR 総武線 小岩駅

仲小岩小入口交差点（写真下右）で都道 451 号線と交差します。左へ行くと葛飾橋方面、右へ行くと篠崎町方面です。蔵前橋通りはここから都道 60 号線と名を変えて、終点の市川橋手前へ向かいます。市川橋は江戸川にかかり、渡ると千葉県市川市に入ります。



[江戸川交差点] 江戸川区北小岩三丁目

最寄駅 京成本線 江戸川駅

江戸川交差点（写真下左）が蔵前橋通りの終点です。直進すると千葉県との県境の市川橋です。写真下右は蔵前橋通りの終点を示す道路標識です。



これにて文京区・千代田区・台東区・墨田区・江東区・葛飾区・江戸川区を通過して、隅田川・旧中川・荒川・中川・新中川にかかる蔵前橋・江東新橋・平井大橋・上一色橋を渡る蔵前橋通りを起点から終点まで歩きました。川が次々と区境となり、変化が多く、満足感・達成感が一杯あったウォークでした。中川は分流により、旧中川、新中川とわかれて流れているのを知りました。蔵前橋通りからこぼれた話で締めくくります。

[こぼれ話－1] 市川橋

江戸川区北小岩一丁目・千葉縣市川市市川二丁目

最寄駅 京成本線 江戸川駅

江戸川交差点の目の前が江戸川にかかる千葉県と境界の市川橋（写真下左右）なので足を延ばしました。市川橋の前身は 1905 年設置の江戸川橋（木造橋）、1927 年現在の位置に鉄橋が設置され、市川橋に改称しました。現在の姿には 1963 年（下り線）、1967 年（上り線）に完成しています。



[こぼれ話－2] 御番所町跡・北野神社

江戸川区北小岩三丁目 最寄駅 京成本線 江戸川駅
江戸川交差点から京成本線江戸川駅に向かう帰る途中で見つけた場所です。
御番所町跡（写真下左）は説明板によると「江戸時代ここは佐倉道と元佐倉道の合流する所で南北に走る岩槻道にも接する交通の要衝だった。江戸川には小岩市川の渡しが定船場となり、番所（関所）が置かれたことから番所町と称した。かつては旅籠を兼ねた小料理屋や寿司屋・飴屋・豆腐屋などの店が並んでいたと伝わります」と記載。左へ行く道が江戸川の方です。



江戸川駅の手前左に北野神社（写真上右）がありました。説明板によると「現在の北小岩三丁目・四丁目の鎮守で、江戸時代にはこの地にあった稲荷神社と北方の北野神社を 1909 年（明治 42 年）合祀し、北野神社となりました。1964 年（昭和 39 年）近くの東小岩の須賀神社を合祀し、祭神は三柱となっています」と記載。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、バーチャルウォーク「東海道五十三次」京上りに挑戦しています。東海道五十三次はバーチャルウォーク「弥次さん 喜多さんと伊勢参り」で2021年（令和3年）9月から歩きました。寅さん歩 379 令和3年10月から掲載済です。
今回は宿場などを紹介しながらゆっくりと歩きます。現在やこれから東海五十三次を歩くウォーカーの皆様と街道途中でお会いするのを楽しみにしています。連絡を取り合って、どこかの宿でバーチャル宴会をしたいですね。皆様の旅の進度のご連絡をお待ちしています。京三条から江戸へ向かう東下りの八柳さんとはどこかでお会いできそうです。

2023年8月8日、お江戸日本橋（現在の中央区日本橋一丁目）を出発、2023年10月11日興津宿（現在の静岡県静岡市清水区）（江戸日本橋から160km）に到着しました。各宿場は歌川広重の浮世絵（無料画像）や宿場などでの話題を紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド（東海道ネットワークの会）」を参考にしています。



写真左は「興津川」です。興津宿手前を流れる興津川を相撲の力士が渡っています。馬に乗って渡る力士と籠に乗って渡る力士が描かれています。背景にはうららかな海辺の風景が広がっています。

名物は興津鯛（写真下左）、宮様まんじゅう（写真下右）アジの押し寿司、さくらえび井などがあります。興津鯛はアマダイと云われ徳川家康も食べたとのこと。アマダイの開は祝い事などの席に出されました。宮様まんじゅうは興津に静養で訪れた皇族に出すのにつくられたもので当時の「清見寺」の古川大航老師が考案しました。清見寺は奈良時代に建てられた禅寺で徳川家康とのゆかりも深い寺です。家康が幼名「竹千代」と名乗り今川家の人質として駿府にいたころに、しばしばここへきて勉強したといわれます。庭園には家康手植えの木があります。



毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。

FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。

今回の東海道五十三次のコースシートは1マス2kmを塗りつぶして進みます。マイペースの散歩で塗りつぶしていく楽しみがあります。

また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷してご利用ください。

平野 寅次郎 拝